



玉北小だより

かしこく
やさしく
たくましく

小美玉市立玉里北小学校
平成29年9月12日
No. 19

うまれてきてくれて ありがとう

夏休みの終わりから、新学期のはじめにかけて、心が締め付けられるような報道が毎日のようにありました。

文部科学省からも「18歳以下の自殺は、8月下旬から9月上旬等の学校の長期休業明けにかけて急増する傾向がある」との発表も出ています。子供たちの身近な大人として、「かけがえのない大切な命」「次につないでいく命」を伝えたく、9月11日の全校集会の「校長先生のお話」で話と絵本の読み聞かせをしました。

以下に、話した内容を掲載します。



今日のお話は、最後、皆さんに題名を付けてもらおうと思っています。

先週、校長先生が校長室で仕事をしていたときのことで、5年生が、毎日のように小さな瓶をもって、外を通りました。そのときの顔は、いつもの表情とは違いました。教室で大切に飼っているメダカが、毎日のように2匹ぐらい死んでしまったのを埋めるために通ったようでした。「今日も死んじゃった」水槽の水なのか、悪い病気なのか、先生には原因はわかりません。

5年生はメダカを飼っていますが、先生は犬を飼っています。室内犬なので、家の中で、毎日、一匹でお留守番です。先生が帰ると、玄関のところまでお迎えに来て、しっぽ勢いよく振ります。その後、決められた場所で、おしっこをし「できたよ」とこちらを向いて待っています。ご褒美をねだります。ご褒美をあげ、その後、一度だっこをしてあげると、満足したようにおいて、自分のお気に入りの場所に戻っていきます。皮膚が少し弱いので、毎週病院に連れて行って、薬のお風呂に入れてもらっています。生まれて2ヶ月の時から育て始め、12年目になります。世話が大変なときもありますが、どうかいつまでも一緒にいられますようにと思いながら、毎日、育てています。

メダカや犬に、こんな思いをもつのですから、皆さんのお家の方はどんな思いで、皆さんを育ててくれているのでしょうか。

☆ここで、絵本「うまれてきてくれて ありがとう」(文：にしもとよう 童心社)の一部の読み聞かせをしました。

皆さんが生まれるとき、そして、もちろん今も、変わらない思いをもってくれています。

先週、ニュースなどで、自分で命を自分で終わらせてしまった人たちがいることを見ました。この世の中に、自分で終わらせていい命、いらぬ命、むだな命…なんて一つもありません。あなたの成長を喜んでいる人が、たくさんいるのです。見守ってくれている人がいるのです。大切な命、自分のために、家族のために、大切に、そして、輝かせてくださいね。



今日のお話は、これで終わりです。

さあ、今日のお話について何という題名を付けますか。考えた題名を心の中に大切にしましましょう。



先週、代表委員会の5、6年生が、左のような「おなやみかいけつ ごいけんポスト」を設置してくれました。

「玉里北小の子が『笑顔』で学校生活を送れるように、誰もが通るところがよい」との考えで、ポストは昇降口に設置されました。

「入れられたお悩みやご意見については、できる限り代表委員会でお返事をお渡しし、委員で解決できないことは先生に相談します」とのことでした。

玉里北小にはいつもあなたを見ているあなたの味方がいます。